



1\_ 蔵王火山に関する質疑応答 2\_ 仙台管区気象台気象防災部の巻和男火山情報調査官 3\_ 仙台管区気象台防災部予報課の白川栄一課長  
4\_ 西益岡自治会の紺野澄雄さん 5\_ 大平自主防災組織連合会の佐久間儀郎さん



## 平成 25 年度市総合防災訓練の反省を踏まえた訓練を 6月8日(日)に実施する予定です

1月中旬以降、地区本部長が中心になって、地区、指定避難所でワークショップを開催しますので、皆様のご意見をお聞かせください。

### 平成25年度市総合防災訓練の反省

「平成25年度白石市総合防災訓練」を行い、指定避難所からの訓練報告を取りまとめた結果、次の5つの項目が挙げられました。

- ①避難所ごとに早めの打ち合わせ会を実施し、訓練計画を検討すること。
- ②一時避難場所での訓練と、指定避難所での訓練の内容をより明確にすること。
- ③指定避難所運営組織の各役割分担を明確にすることで、より具体的な訓練の実施をすること。
- ④駐車場整理係や避難所誘導係など、指定避難所に合わせた係を設ける必要がある。
- ⑤サイレンや安心メールのほかに、訓練開始の合図方法を検討すること。

### 平成26年度市総合防災訓練

平成26年度からは、従来の地区持ち回りでの訓練は行わず、各地区で自主防災組織や自治会が実施する一時避難場所への避難訓練と、市内全域で指定避難所の開設・運営訓練を実施したいと考えています。

地震発生想定は、震度6弱の地震が発生。被害想定は、各地区や自主防災組織、自治会単位などで土砂災害や住宅の倒壊、堤防の破堤など地域の状況に合わせたものとし、来年度の市総合防災訓練は、6月8日(日)に実施する予定です。

これから各地区、指定避難所での打ち合わせ会の内容を踏まえ、3月11日に開催を予定している「白石市防災会議」で方針を決定します。

来年度の「避難所開設・運営訓練」の内容は、指定避難所ごとに運営組織の各班の役割に基づいて、具体的な訓練計画を作成して進めていきます。

また、白石消防署による「救助・救出訓練」や「応急救急訓練」、白石警察署による「災害時における防犯講話」の実施のほか、自衛隊やN T T、東北電力白石営業所などの協力を得た訓練なども、地区ごとに組み入れてたいと考えています。

さらに、各指定避難所に備蓄倉庫を設置し、備蓄品の充実を図るとともに、プライベートテント(男女別の更衣室)や、簡易トイレの設置訓練などを防災訓練に取り入れていきます。

そして市では、平成25年度市総合防災訓練の課題の解決と、地域防災計画の見直しの基礎資料とする「地区別カルテ」(※1)、「避難所台帳」(※2)を作成します。防災マップの作成に当たっては、地域の皆様のご意見を伺うワークショップを1月中旬以降、地区本部長が中心となって、地区、指定避難所ごとに開催していきます。

このワークショップのほか、来年度の総合防災訓練の打ち合わせ会を開催し、訓練目的の共通理解を深めるとともに、指定避難所での訓練内容を指定避難所ごとに明確にします。

また、サイレンや安心メール以外の訓練開始の合図は、すべての地区にサイレンの設備がないので、エリアメールを活用し、消防団の協力を得て、積載車のサイレンも活用していきます。

#### ※1 地区別カルテ

地形状況や予測される災害の状況、地区の規模などを考慮して、地区ごとの災害特性と防災課題を把握。地区別の台帳を整理し、防災マップの作成や災害時の避難計画、日ごろの訓練などに役立てるもの。

#### ※2 避難所台帳

避難所の利用方法や施設の情報を把握し、避難所開設・運営を円滑に行うために作成するもの。

## 平成25年度白石市防災講演会を開催しました 防災意識を高め いざというときに備える！

生活環境課 ☎22-1314

12月1日、「平成25年度白石市防災講演会」をホワイトキューブで開催しました。講演会には、各自治会や各自主防災組織、各学校の関係者など約500人が参加。この日は、仙台管区気象台の調査官などによる講演会や、自治会、自主防災組織の代表による事例発表などが行われました。

### 蔵王火山の現状と防災対策

まず、仙台管区気象台気象防災部の巻和男火山防災情報調査官が、「蔵王火山の現状と防災対策」と題して講演を行い、蔵王火山の特徴や活動状況を説明。「蔵王山は活火山ですが、静穏な状態で、すぐに噴火の起こるような兆候はありません。しかし、将来的には噴火する可能性があります。非常時に的確な判断と避難行動を起こすためには、普段からの防災対応をあらかじめ考えておくことが不可欠」と話しました。

### 特別警報と近年の気象災害

次に、同気象台気象防災部予報課の白川栄一課長は、「特別警報と近年の気象災害」と題して講演を行い、東日本大震災における津波や、平成23年台風第

12号による豪雨のような、重大な災害が起こるおそれ著しく大きい場合に発表する「特別警報」を平成25年8月30日から運用を開始したことを説明。特別警報が発表されたら、「身をを守る行動を」と呼び掛け、「被害をイメージする力や危険を感じる冷静な心、避難を判断する勇気を持って、避難するときは周りにも声を掛けて」と結びました。

### 自治会・自主防災会の取り組み 6・9防災訓練の実施

事例発表では、西益岡自治会の紺野澄雄さんと、大平自主防災組織連合会の佐久間儀郎さんが事例を発表しました。

紺野さんは、「6・9防災訓練の実施」地区住民の防災意識の更なる高揚」と題して事例を発表しました。平成17年に自治会の付属機関として自主防災会を設置。平成25年2月には、地区防災マップを赤い羽根募金などの助成を受けて作成し、地区内の全世帯と小中学校、医療機関に配布するとともに、活用を促すチラシを同時配布したことを説明。「自治会・自主防災会役員が中心となり、地区で行われる各種行事などを通じた地区住民の参加意識の向上、また、災害時要援護者に対する支援、

自治会の自己資金などを活用した防災資器材・備蓄品の整備、確保が必要」と今後の課題を話しました。

### 大平自主防災組織連合会の防災訓練

佐久間さんは、「大平自主防災組織連合会の防災訓練について」災害時における自助の心の共有を目指して」と題して事例を発表しました。

これまでの訓練の効果として、①安否確認や避難誘導、避難所開設などを体得でき、対応能力が養われた、②各戸の無事を確認するための黄色い旗を導入し、安否確認が容易になった、③各地区防災会長が無線機を所持し、毎月訓練を行うことで各種情報の収集・伝達が瞬時に行われる体制ができた、④希薄になりがちな防災に対する心構えを持つきっかけになった、⑤子どもを大切に育む環境づくりを学校と地区民が合同で行うことで、連携を一層深めたことなどを説明。結びに、「住民意識の啓発や防災機具の活用技術の体得、風水害に対する訓練、避難者の自主的な避難所運営が課題です。今後も繰り返しの訓練が必要」と話しました。